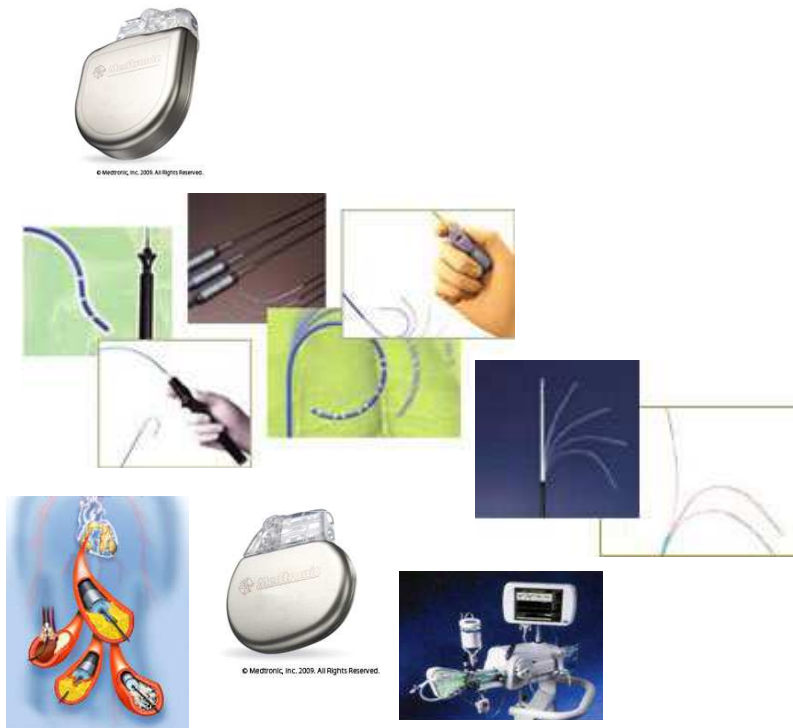




ディービーエックス株式会社
2013年3月期第2四半期決算説明資料

1

目次



当上期のポイント	3
基本戦略	5
基本戦略	6
基本戦略 不整脈事業	7
基本戦略 虚血事業	12
決算概要	16
要約損益計算書	17
要約貸借対照表	18
要約キャッシュフロー計算書	19
2013年3月期通期業績予想	20
2013年3月期期末配当予想	21

参考資料	22
会社概要	23
当社の考え	24
概要	25
沿革	26
市場環境	27
国民医療費	28
医療機器・用品市場	29
不整脈事業の市場	30
虚血事業の市場	31
主要取扱商品	32
ペースメーカー	33
ICD	34
CRT-D	35
アブレーションカテーテル	36
電極カテーテル	37
自動造影剤注入装置	38
エキシマレーザ血管形成システム	39



当上期のポイント

当上期のポイント



期初予想

特定保険医療材料の償還価格変更は売上高に対して6.8%ダウンの影響があり、従前に増して厳しい経営環境。

営業戦略 の転換

販売・仕入価格の交渉は厳しいものになると想定し、営業戦略を大幅に変更した。期首に営業部門のエリア統括を主眼として大幅な組織変更を行い、虚血事業の全国展開に加え、不整脈事業でも全国展開を開始。西日本、東北など戦略エリアの営業担当者増員を継続的に実施する方針。

Point①

営業戦略エリアでの新規顧客開拓

Point②

ニッチ・トップの位置にある高利益率商品の販売数量が堅調推移

Point③

人件費を中心とした販売管理費の適正化



基本戦略

基本戦略



不整脈事業

販売代理店業

関東圏の旗艦拠点で人材育成を行い、全国への展開を開始。

重要戦略拠点 5拠点。

ペースメーカー等デバイスに比べ、アブレーションカテーテルの数量増加率が高いことを予想。

虚血事業

輸入総代理店業

医療現場で医療施設、患者様のニーズを汲み取り、不整脈事業との連携を強化。

営業部門の一体化。

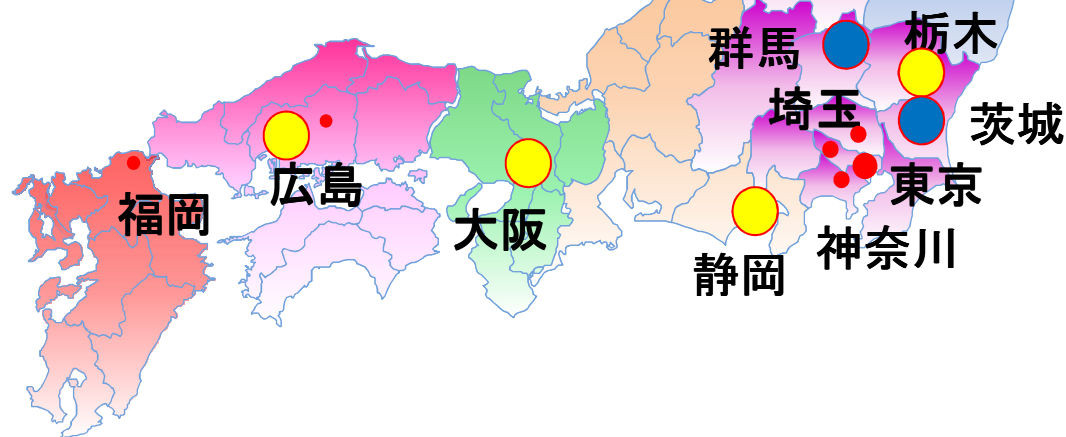
ニッチトップとなる製品を発掘、流通させることが存在意義につながる。

基本戦略 不整脈事業①

関東圏の旗艦店で人材育成を行い、全国への展開を開始。

重要戦略拠点 5拠点。

ペースメーカー等デバイスに比べ、アブレーションカテーテルの数量増加率が高いことを予想。

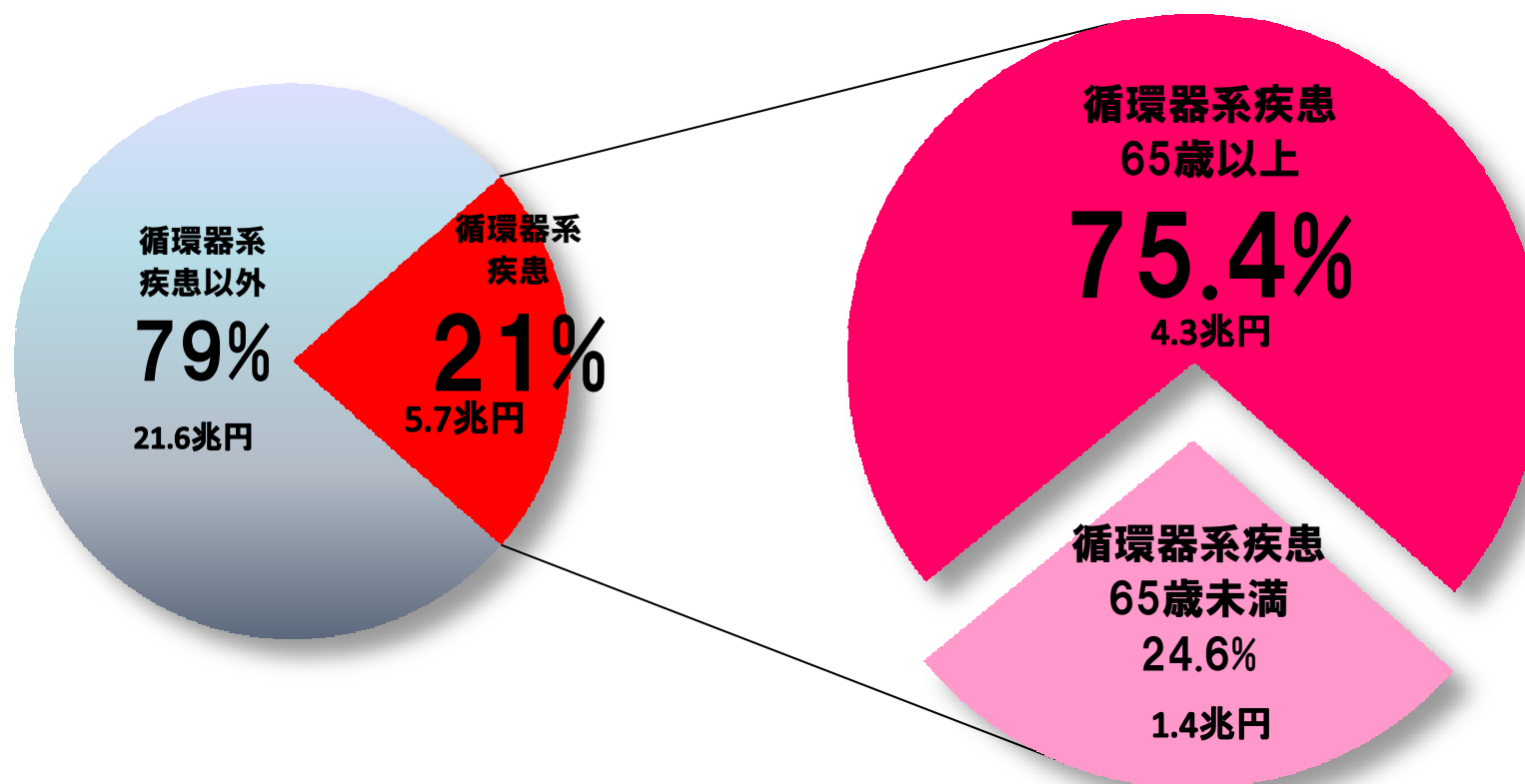


エリア	拠点数 (不整脈拠点数)
北海道・東北	3(1)
関東(含む本社)	8(8)
中部・東海	3(1)
近畿	1(1)
中国・四国	2(1)
九州・沖縄	1
合計	18(12)

※中部・東海の3拠点は脳外領域(その他)が中心

循環器系疾患の高齢者割合

循環器系疾患に係る医療費

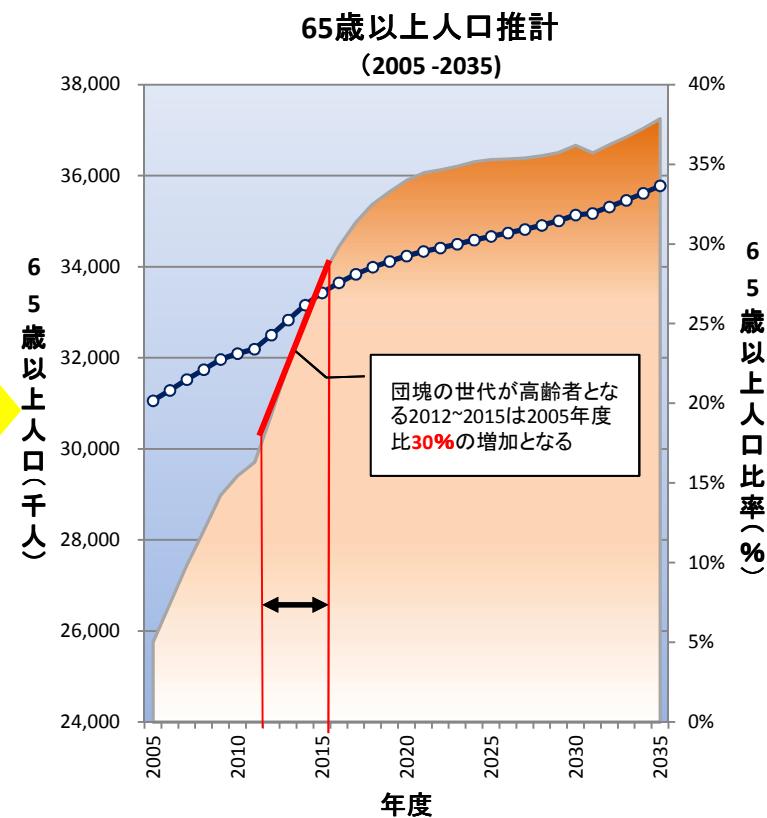
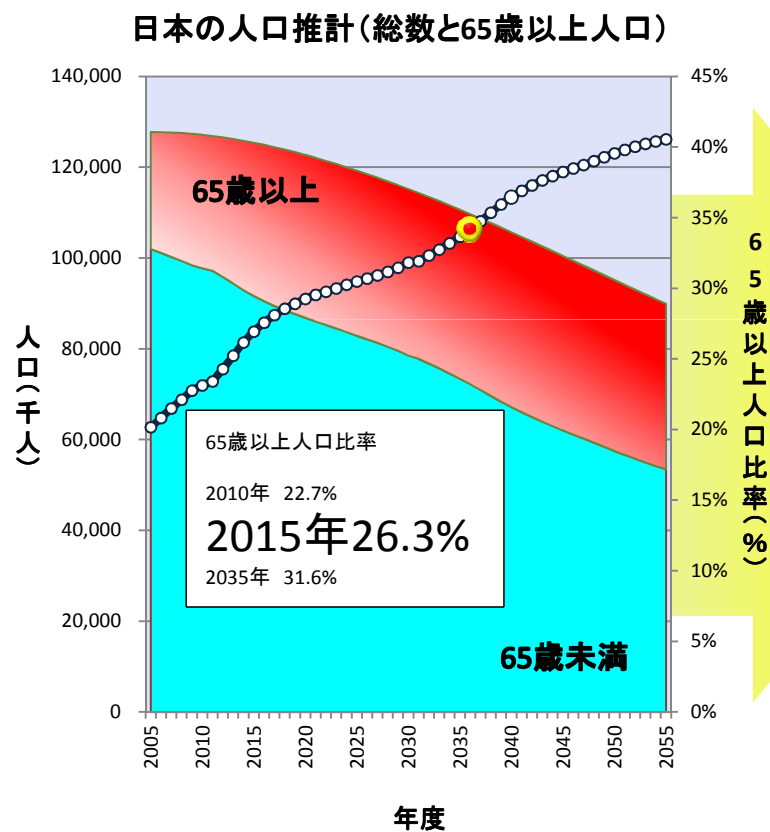


循環器系疾患に罹患されている方の75%が65歳以上

基本戦略 不整脈事業③



高齢者(65歳以上)人口の推移



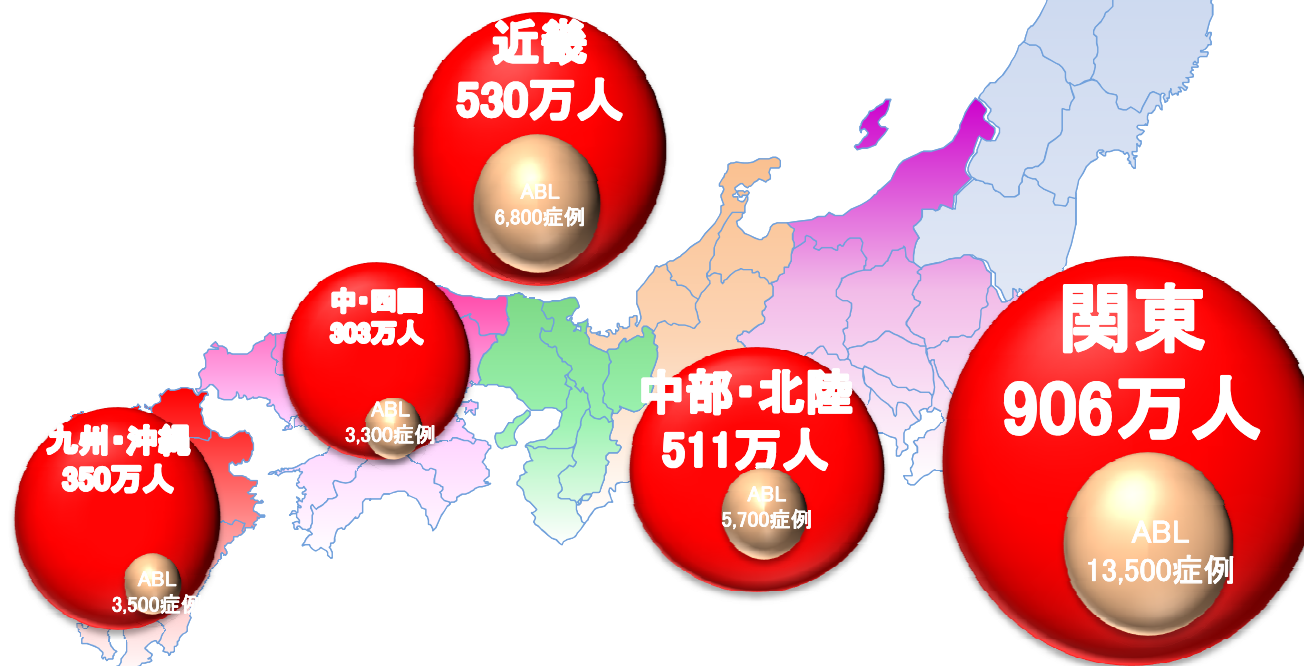
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」: 2012年1月推計より分析

基本戦略 不整脈事業④



全国地域別65歳以上人口分布(約2970万人)と
心筋焼灼術年間症例数の推計(2011年 約36,000症例)

65歳以上人口が増加するにつれ、心筋焼灼術症例数も増加することが見込まれる。



基本戦略 不整脈事業⑤

65歳以上人口では約2%が心房細動 = 約58万人
全人口では約100万人と推計されている
心筋焼灼術症例数の推計(2011年約36,000症例)

前期より近畿・九州での広域
展開の準備を開始。

不整脈潜在人口に比べ、
心筋焼灼術症例数がまだ
少ない状況。

不整脈事業営業担当者を
每期10%増員。併せて教育部
門を増強。



基本戦略 虚血事業①



医療現場で医療施設、患者様のニーズを汲み取り、不整脈事業との連携を強化。

営業部門の一体化。

ニッチトップとなる製品を発掘、流通させることが存在意義につながる。



エリア	拠点数 (虚血拠点数)
北海道・東北	3(3)
関東(含む本社)	8(1)
中部・東海	3(0)
近畿	1(1)
中国・四国	2(2)
九州・沖縄	1(1)
合計	18(8)

※中部・東海の3拠点は脳外領域(その他)が中心

基本戦略 虚血事業②



エキシマレーザ(リード拔去)導入施設

ブロック	施設数 (病院)
北海道・東北	0
関 東	7
甲 信 越	1
中 部・北 陸	2
近 畿	4
中・四 国	4
九 州・沖 縄	2
導 入 施 設 合 計	20

この治療は安全性を十分担保するために、**施設認定を受けた病院**で行われます。



基本戦略 虚血事業③



エキシマレーザ(冠動脈形成術) 導入施設

ブロック	施設数 (病院)
北海道・東北	2
関 東	6
甲 信 越	1
中 部・北 陸	2
近 畿	5
中 ・ 四 国	2
九 州・沖 縄	5
導 入 施 設 合 計	23

この治療は安全性を十分担保するために、**施設認定を受けた病院**で行われます。

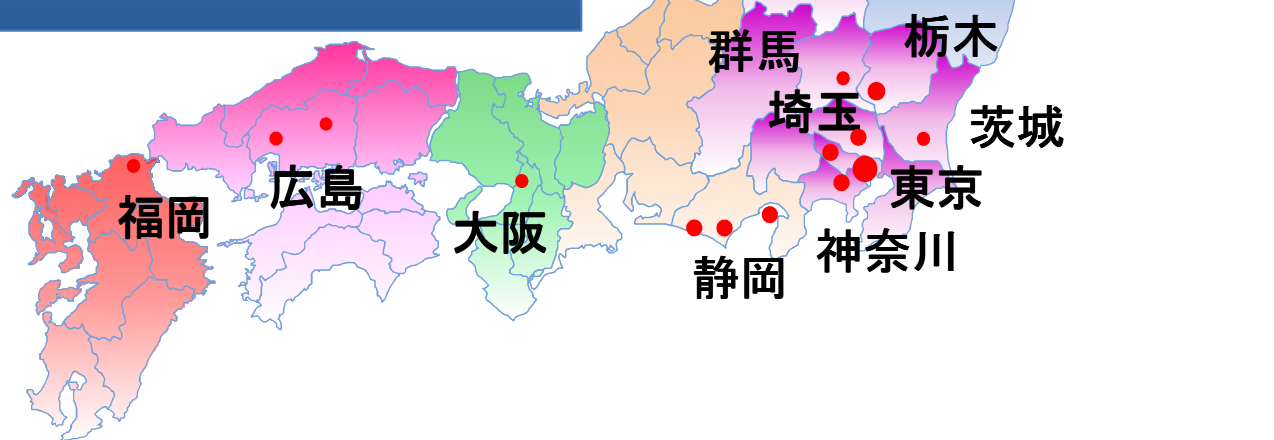


基本戦略 虚血事業④

新製品導入体制の再構築を行う
ためマーケティング・薬事品質保
証部門の強化。

エキシマレーザ本体の
適正な販売促進

アシスト、エキシマレーザの本体
保守、消耗品販売への注力。



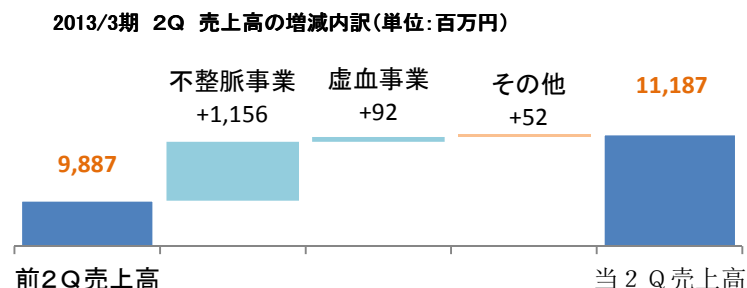
D_{Vx}

決算概要

要約損益計算書



	前2Q (2011/4-9月) (単位:百万円)	百分比 (%)	当2Q (2012/4-9月) (単位:百万円)	百分比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	9,887	100.0	11,187	100.0	+13.1
不整脈事業	8,143	82.4	9,300	83.1	+14.2
虚血事業	1,543	15.6	1,635	14.6	+6.0
その他	200	2.0	251	2.3	+25.7
売上総利益	1,746	17.7	1,949	17.4	+11.7
販管費	1,326	13.4	1,389	12.4	+4.8
営業利益	419	4.2	560	5.0	+33.5
経常利益	416	4.2	569	5.1	+36.7
当期純利益	233	2.4	367	3.3	+57.7
1株当たり四半期純利	41.37円	—	65.22円	—	—



- 売上・利益ともに第2四半期ベースで過去最高を更新
- 販管費の適正化により売上高営業利益率・売上高経常利益率が5%超

当社は2011年10月1日付並びに2012年10月1日付で、それぞれ普通株式1株につき、2株の割合で株式分割を行いました。前年事業年度の期首に当該分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

要約貸借対照表



(単位:百万円)

勘定科目	前期末 (2012/3末)	当2Q末 (2012/9末)	差異	勘定科目	前期末 (2012/3末)	当2Q末 (2012/9末)	差異
現金及び預金	2,231	2,649	417	買掛金	4,746	5,202	456
受取手形及び売掛金	5,319	5,653	333	1年以内返済長期借入金	171	143	△ 27
商品	531	538	7	未払法人税等	287	313	26
その他	211	271	60	賞与引当金	130	174	44
貸倒引当金	△ 6	△ 6	0	売上値引引当金	—	188	188
流動資産合計	8,287	9,106	818	その他	274	199	△ 75
有形固定資産	215	229	13	流動負債合計	5,609	6,221	612
無形固定資産	58	50	△ 8	長期借入金	189	126	△ 63
投資有価証券	167	158	△ 8	退職給付引当金	109	116	6
差入保証金	94	97	3	その他	74	74	0
その他	128	103	△ 25	固定負債合計	373	316	△ 57
貸倒引当金	△ 26	△ 2	24	負債合計	5,983	6,538	555
投資その他の資産合計	363	357	△ 5	株主資本	2,937	3,206	269
固定資産合計	637	636	0	評価換算差額等	3	△ 2	△ 6
				純資産合計	2,941	3,204	262
資産合計	8,924	9,742	818	負債純資産合計	8,924	9,742	818

● 売上高の増加に伴い、売上債権及び仕入債務が増加

● 自己資本比率は32.9%(前期末33.0%)

要約キャッシュフロー計算書



(単位:百万円)

	前2Q (2011/4-9月)	当2Q (2012/4-9月)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	494	631	137
投資活動によるキャッシュ・フロー	-124	-22	101
財務活動によるキャッシュ・フロー	-115	-190	-75
現金及び現金同等物に係る換算差額	-1	-0	1
現金及び現金同等物の増減額	253	417	164
現金及び現金同等物の期首残高	2,083	2,231	148
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,337	2,649	312

設備投資	67	50	-16
減価償却費	35	34	-1

(注)設備投資額は、投資キャッシュ・フローの有形及び無形固定資産の取得による支出の合計額です。

- 増益等により、営業キャッシュ・フローが増加
- 有形固定資産の売却等により投資キャッシュ・フローが増加
- 増配や借入金返済により、財務キャッシュ・フローが減少

2013年3月期通期業績予想

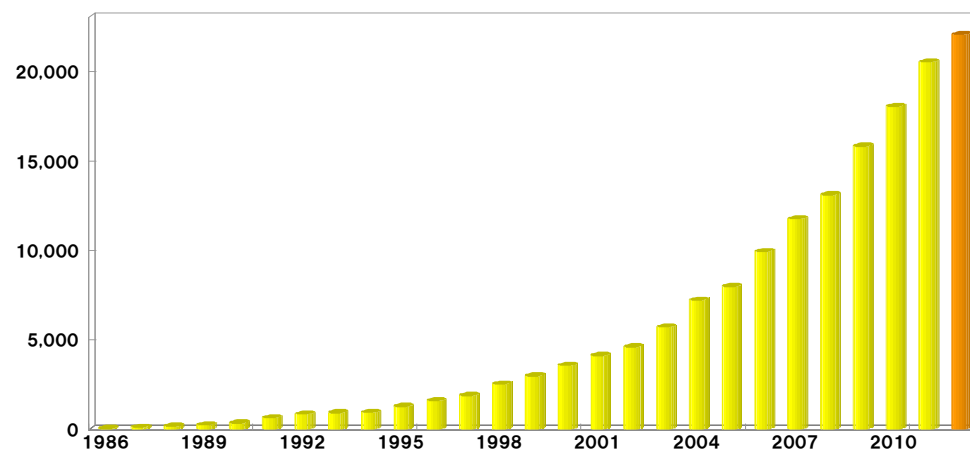


	2012/3期 (実績)	2013/3期 (9月24日発表修正予想)	
	金額(百万円)	金額(百万円)	増減率(%)
売上高	20,487	22,024	+7.5
不整脈	16,581	17,918	+8.1
虚血	3,211	3,513	+9.4
その他	695	593	△14.7
営業利益	892	1,061	+18.8
経常利益	873	1,065	+22.0
当期純利益	476	629	+32.1
1株当たり純利益	84.42円	111.55円	—

●9月24日業績予想の上方修正発表

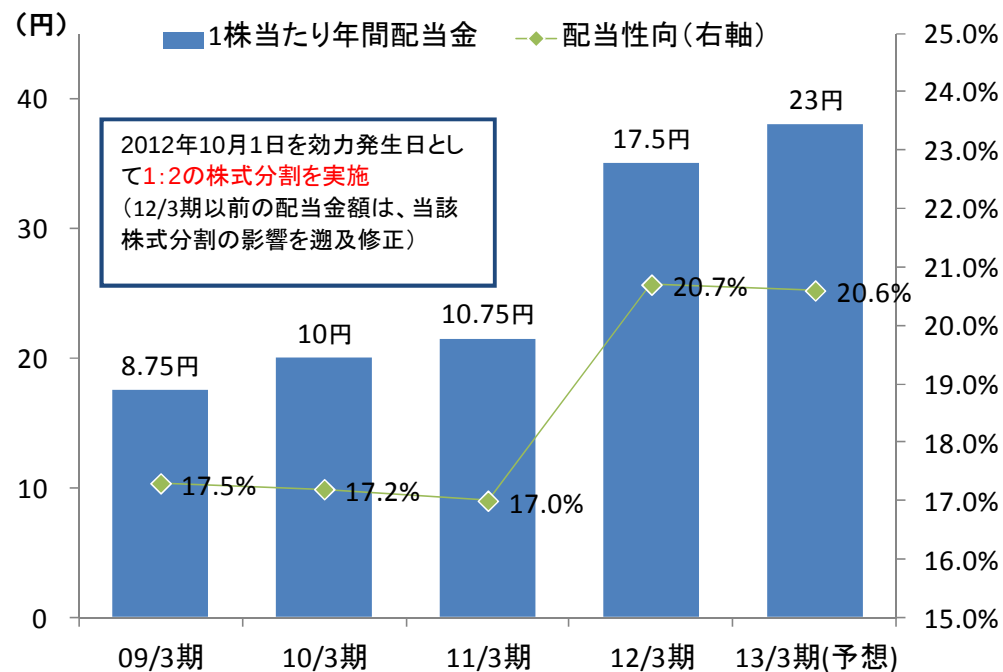
(単位:百万円)

創業からの売上推移



●創業以来の26期連続増収増益

2013年3月期期末配当予想



● 上場以来連続増配の実績

● 期末配当予想(23円)

● 配当性向20%以上を基本方針

● 業績向上を通じた安定配当を目指す

参考資料



会社概要

「生命とQOLを守る」会社でありたい。

- 医療機器の進化は、人々の「生命とQOLを守る」。
 - 医療機器の進化は新しい検査・治療を可能にし「生命を守る」。
 - 医療機器の進化は患者の身体的・費用的・時間的負担を軽減し「QOLを守る」。

- 超高齢化社会の到来で、「生命とQOLを守る」使命は、さらに重要になる。
 - 超高齢化により疾病予防・検査・治療に使用される医療機器の需要は増加
 - 超高齢化により「生命とQOLを守る」ことは社会全体の課題

- 医療機器と医療現場をつなげる医療機器販売会社に期待される役割も、ますます重要となる。

概要



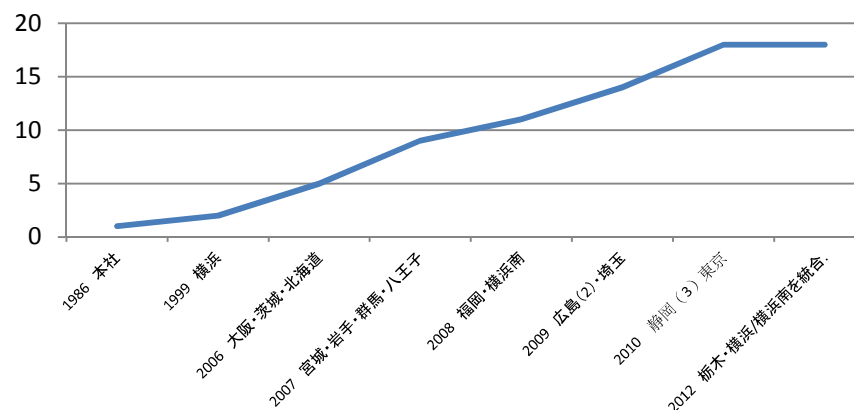
- 社 名 ディーブイエックス株式会社 (DVx Inc.)
- 代 表 者 代表取締役社長 若林 誠
- 所 在 地 東京都豊島区高田二丁目17番22号
- 設 立 1986年4月1日
- 上 場 2007年4月25日
- 証 券 コ ー ド 3079
- 事 業 内 容 医療機器の販売
- 資 本 金 3億4千4百万円 (2012年3月末現在)
- 売 上 高 204.9億円 (2012年3月期実績)
- 従 業 員 数 198名 (2012年9月末現在)
- 営 業 拠 点 国内18ヶ所

沿革



- 1986年 **心臓ペースメーカー販売とフォローアップ業務**を目的として、(株)ヘルツを設立
- 1992年 **心臓電気生理検査用機器**の輸入販売を開始
- 1997年 医療機器輸入会社(有)シー・エム・アイジャパンを子会社化
(株式会社に改組後、ディービーエックスジャパン(株)に商号変更)
- 2000年 **自動造影剤注入装置 (ACIST)** の輸入販売を開始
- 2003年 **エキシマレーザ血管形成システム**の輸入販売を開始
- 2004年 ディービーエックスジャパン(株)を吸収合併
(株)ヘルツからディービーエックス(株)に商号変更
- 2007年 ジャスダック証券取引所に株式上場 (現 大阪証券取引所 JASDAQ)
- 2008年 **「エキシマレーザ心内リード抜去システム」** の薬事承認を取得
- 2010年 (株)メディカルプロジェクトより静岡の営業拠点を事業譲受
- 2012年 全国18拠点体制

営業拠点数



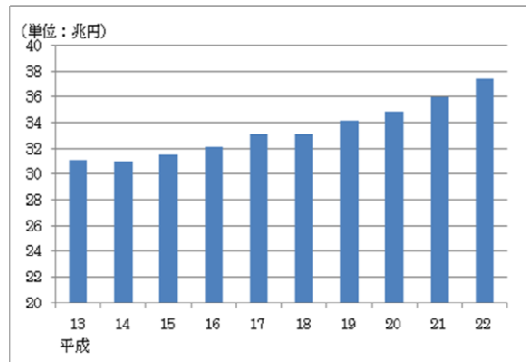


市場環境

国民医療費

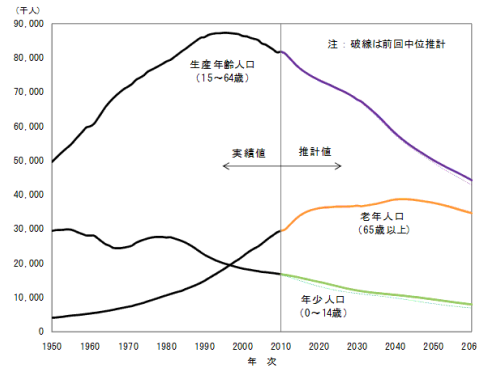


● 国民医療費の推移（表1）



資料：厚生労働省ホームページ
「2010年度 国民医療費の概況」より抜粋
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/10/index.html>

● 日本の将来推計人口（表2）



資料：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ
「日本の将来推計人口（2012年1月推計）」より抜粋
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/sh2401top.html>

● 国民給付費の将来見通し（表3）

	2006年度 (平成18) 予算ベース	2010年度 (平成22)	2015年度 (平成27)	2025年度 (平成37)
改革後	27.5 兆円	31.2 兆円	37 兆円	48 兆円
国民所得比	7.3%	7.4% ～ 7.7%	8.0% ～ 8.5%	8.8% ～ 9.7%
GDP比	5.4%	5.4% ～ 5.6%	5.8% ～ 6.1%	6.4% ～ 7.0%
改革実施前	28.5 兆円	33.2 兆円	40 兆円	56 兆円
国民所得比	7.6%	7.9% ～ 8.2%	8.7% ～ 9.2%	10.3% ～ 11.4%
GDP比	5.5%	5.8% ～ 5.9%	6.3% ～ 6.6%	7.5% ～ 8.2%
国民所得	375.6 兆円	403 ～ 420 兆円	432 ～ 461 兆円	492 ～ 540 兆円
GDP	513.9 兆円	558 ～ 576 兆円	601 ～ 634 兆円	684 ～ 742 兆円

資料：厚生労働省ホームページ
「医療費の将来見通しに関する検討会」資料より抜粋
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/07/s0701-2.html>

国民医療費

わが国の国民医療費は年々増加し、平成22年度で約37兆円に達しており（表1）、今後、急速な高齢化社会の到来（表2）だけでなく、生活環境の変化による生活習慣病を中心とした慢性疾患型疾病の増加などにより、国民医療費はますます増大するものと推測されております。加えて、今後、所得に対する負担率の増加が見込まれており（表3）、このため診療報酬体系の見直しや保険償還価格の引き下げなど、政府の医療費抑制政策は一層加速するものと考えられております。

医療機器・用品市場



● 医療機器・用品の末端マーケットサイズの推移（表4）

単位：億円、%（ ）内は伸び率

	平成19年度	*平成20年度	平成21年度	*平成22年度	平成23年度（推測）	*平成24年度（予測）
末端マーケットサイズ	26,380 (-0.3)	26,250 (-0.5)	26,800 (2.1)	27,240 (1.6)	27,000 (-0.9)	27,150 (0.6)
①卸・小売業者直販分	22,520 (-0.0)	22,550 (0.1)	23,340 (3.5)	23,890 (2.4)	23,650 (-1.0)	23,800 (0.6)
うち31,32業種※の直販分	18,930 (0.4)	19,150 (1.2)	19,890 (3.9)	20,540 (3.3)	20,300 (-1.2)	20,450 (0.7)
②メーカー・輸入商社直販分	3,860 (-1.5)	3,700 (-4.1)	3,460 (-6.5)	3,350 (-3.2)	3,350 (0.0)	3,350 (0.0)

*は診療報酬・薬価改定年

資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 NO.1」

※31業種：医療機器卸・小売

32業種：医療用品卸小売

● 疾病別医科診療医療費（表5）

傷病分類	平成22年度		平成21年度	
	推計額 (億円)	構成割合 (%)	推計額 (億円)	構成割合 (%)
総計	272,228	100.0	262,041	100.0
循環器系の疾患	56,601	20.8	54,350	20.7
新生物	34,750	12.8	33,494	12.8
呼吸器系の疾患	21,140	7.8	20,369	7.8
筋骨格系及び結合組織の疾患	20,263	7.4	19,505	7.4
内分泌、栄養及び代謝疾患	19,828	7.3	18,700	7.1
その他の	119,646	44.0	115,624	44.1
総計	116,532	100.0	112,352	100.0
新生物	14,605	12.5	13,936	12.4
循環器系の疾患	13,934	12.0	13,296	11.8
呼吸器系の疾患	12,389	10.6	12,215	10.9
精神及び行動の障害	11,402	9.8	11,063	9.8
腎尿路生殖器系の疾患	8,477	7.3	8,346	7.4
その他の	55,726	47.8	53,497	47.6
総計	155,696	100.0	149,689	100.0
循環器系の疾患	42,668	27.4	41,054	27.4
新生物	20,146	12.9	19,558	13.1
筋骨格系及び結合組織の疾患	12,954	8.3	12,435	8.3
内分泌、栄養及び代謝疾患	11,717	7.5	11,093	7.4
腎尿路生殖器系の疾患	10,913	7.0	10,955	7.3
その他の	57,299	36.8	54,593	36.5

資料：厚生労働省ホームページ「2010年度 国民医療費の概況」より抜粋
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/10/index.html>

医療機器・用品市場

国民医療費のなかで医療機器・用品（医療機関、大学・研究所向け）の占める割合を見てみると、末端マーケットサイズで平成5年度にはじめて2兆円を突破いたしました。その後政府の医療費抑制策をうけ保険償還価格の大幅な見直しが行われており、直近においてもマーケット規模は2兆6千億円から2兆7千億円台で概ね横ばいの状態で推移しております（表4）。

こうした中で、当社がメインターゲットとしている循環器系疾患は、当面人口増加が予想される65歳以上の高齢者において急増する疾病だけに、超高齢化社会の到来により患者数は大きく拡大していくものと予想されます。さらにライフスタイルの変化が患者数増加に拍車をかけており、価格面では他の医療機器・用品と同様に医療費抑制策の影響を受けて下落傾向にあるものの、市場そのものは大きく拡大していくものと予想されております（表5）。

不整脈事業(売上高の約80%を占める事業)の市場



不整脈事業(販売代理店業)の市場

不整脈とは、心臓を動かす刺激の発生または刺激が伝わる伝導路の異常によって心臓のリズムが乱れる疾病のことで、脈が遅くなる「徐脈」、速くなる「頻脈」、リズムが不規則になって脈が飛ぶ「期外性収縮」の3つに大別されます。原因としては、先天的なもの以外に高齢化や喫煙、ストレスなどによって引き起こされるといわれております。不整脈事業の市場は、こうした高齢化や生活スタイルの変化に伴う患者数の増大、検査機器の高度化による適応患者の増加を背景として安定した拡大を続けております。

商品別では、心臓ペースメーカ市場が伸び悩む半面、I C D（植込み型除細動器）やC R T－D（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）といったハイパワーデバイスと呼ばれる商品や、アブレーションカテーテル（心筋焼灼術用カテーテル）の市場規模が大きく伸びており、横ばい状況が続いている医療機器・用品市場全体の中にあって、不整脈事業の市場拡大は堅調に推移しております。今後も保険償還価格の下落は避けられないものの、市場そのものが拡大基調にあるため、このマイナス分を十分に補うことができると見られております（表6）。

●疾病別医科診療医療費（表6）

商品	平成20年		平成21年		平成22年		平成23年		平成24年 (予測)	
	※	伸び率		伸び率	※	伸び率		伸び率	※	伸び率
心臓ペースメーカ	38,200	-6.0	43,690	14.4	40,645	-7.0	40,881	0.6	38,525	-5.8
I C D／C R T－D	18,970	5.4	20,850	9.9	23,479	12.6	25,745	9.7	28,173	9.4
アブレーションカテーテル	4,478	30.1	6,191	38.3	7,689	24.2	9,579	24.6	11,334	18.3
電極カテーテル (検査用)	13,310	6.2	14,620	9.8	16,125	10.3	15,160	-6.0	15,055	-0.7
リード類	12,224	1.1	13,296	8.8	13,310	0.1	13,718	3.1	14,062	2.5
合計	87,182	0.5	98,647	13.2	101,248	2.6	105,083	3.8	107,149	2.0

(参考) 当社売上高(実績)

全社	13,080	11.4	15,793	20.7	18,000	14.0	20,487	13.8	22,024	7.5
内不整脈事業	11,290	11.1	13,581	20.3	14,688	8.2	16,580	12.9	17,918	8.1

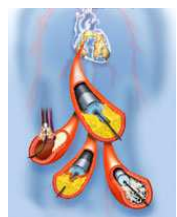
虚血事業(売上高の約15%を占める事業)の市場



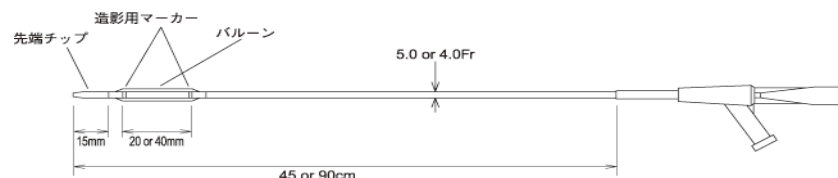
虚血事業(国内総代理店業)の市場

虚血性疾患は、血管が詰まったり細くなったりして起こる疾病で、心臓の冠動脈が原因で起こる心筋梗塞や狭心症、脳の血管が原因で起こる脳梗塞等がその代表的なものです。原因となる動脈硬化は、糖尿病や高血圧、高脂血症等によって進行し、肥満や喫煙、運動不足、ストレスの多い生活も動脈硬化を促進させるといわれております。

医療機器として国内流通させるためには薬事法に基づき厚生労働省の承認が必要になりますが、虚血事業では輸入総代理店として虚血性疾患等の検査・治療に使用する医療機器を独自に輸入しております。



RADPAD®
X-Ray Protection Shield
ラドパッド®エックス線防護シールド

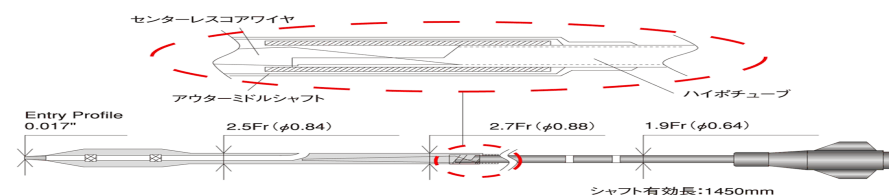


ACIST CV_i は世界の心臓学者による長年の経験と
斬新なアイデアを元に開発された、循環器用インジェクターです。

- ➔ その先進性は従来の造影手技環境を一新し、術者に集中力と手技効率の飛躍的な向上をもたらします。
- ➔ 最適な造影剤注入コントロールと専用キットによる造影剤管理システムは、造影剤量の削減に大きく貢献します。



**RADCAP
RADNEK**
X-Ray Protection Shield
エックス線防護シールド





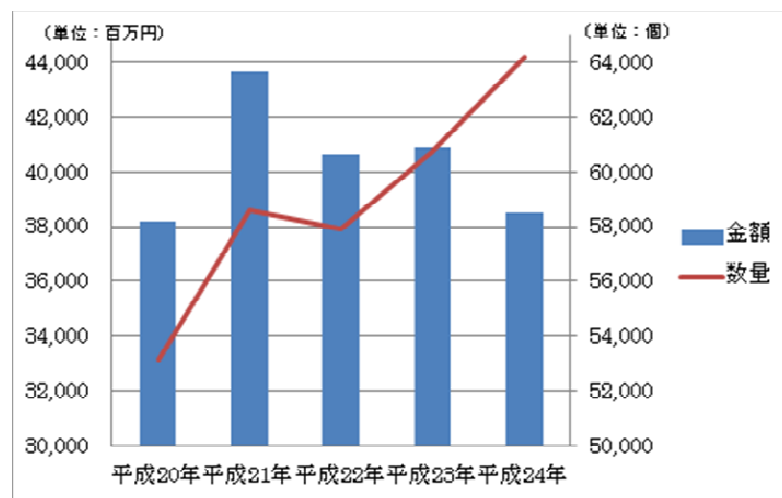
主要取扱い製品

心臓ペースメーカー(不整脈事業)



© Medtronic, Inc. 2009. All Rights Reserved.

●心臓ペースメーカーの市場規模 (表7)



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋 (平成24年は予測)

心臓ペースメーカー

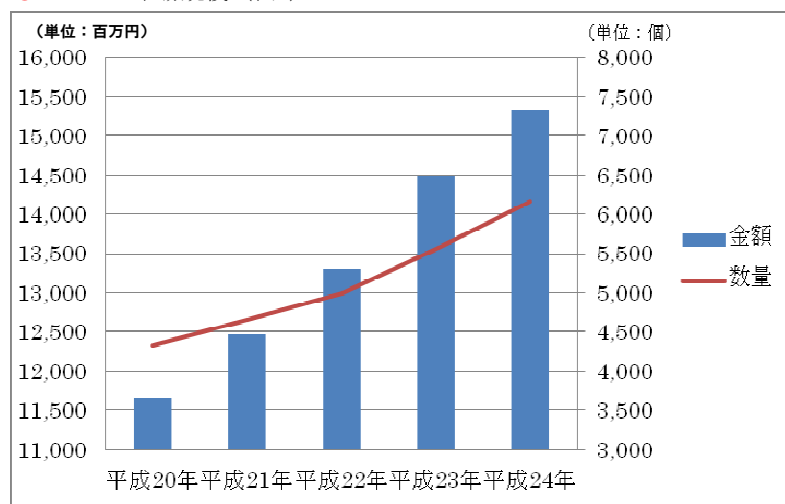
心臓ペースメーカーは、不整脈のうちでも、主に徐脈の治療に使用されますが、同市場は、数量ベースでは増加基調が続いているものの、償還価格の引き下げによる影響を受けており、直近の市場規模は400億円前後で推移しています。平成24年4月に行われた償還価格の改定においても、デバイス全体の平均で13%程度の引き下げが行われたため、市場規模は5.8%縮小するものと予想されています(表7)。

今後の見通しとしては、償還価格の低下傾向は続くと思われるものの、引き続き高齢化等による患者数の増加により、数量の伸びが予想されるとともに、新しい機能が付加された製品が市場に登場することで既存商品より高い償還価格が付くことも考えられることから、市場規模は一定水準を維持していくものと考えられます。

ICD(不整脈事業)



● ICDの市場規模（表8）



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋（平成24年は予測）

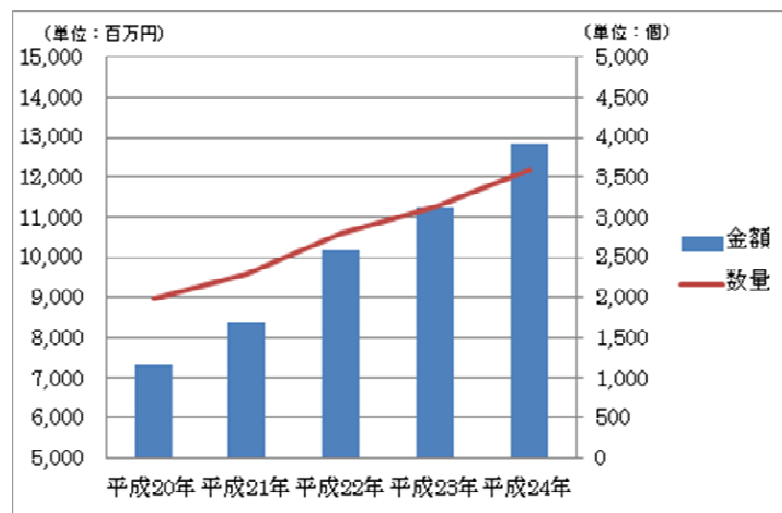
ICD(植込み型除細動器)

心臓ペースメーカーが徐脈の治療に使用されるのに対して、ICD（植込み型除細動器）は頻脈の治療に用いられています。同商品は、平成8年4月の診療報酬改定で保険適用となっており、心臓ペースメーカーと比較すると新しい医療機器ですが、適応患者の増加や新商品の登場とともに市場規模が拡大しています。直近においても、数量ベースでは10%前後増加しており、今後もその傾向は続くものと考えられます（表8）。

CRT-D(不整脈事業)



● CRT-Dの市場規模（表9）



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋（平成24年は予測）

CRT-D

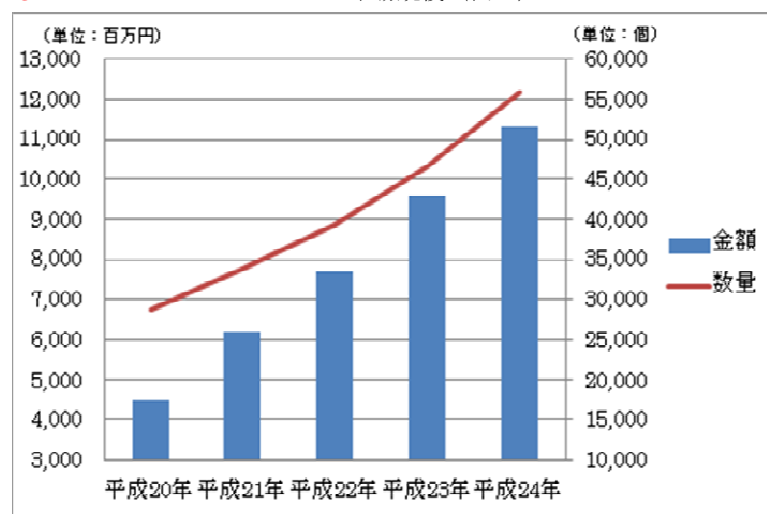
（両室ペーシング機能付き植込み除細動器）

CRT-D（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）は、ICDの機能と、心不全の治療の一種である心臓再同期療法機能を併せ持つ医療機器であり、平成18年8月に保険適用を受けたものです。それ以降、ICDに比べると適応範囲が広いこともあり、市場規模はICD（植込み型除細動器）以上の伸びを示しております。今後も、新商品の投入や適応患者の増加により、増加傾向が続くものと考えられます（表9）。

アブレーションカテーテル(不整脈事業)



● アブレーションカテーテルの市場規模 (表10)



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋 (平成24年は予測)

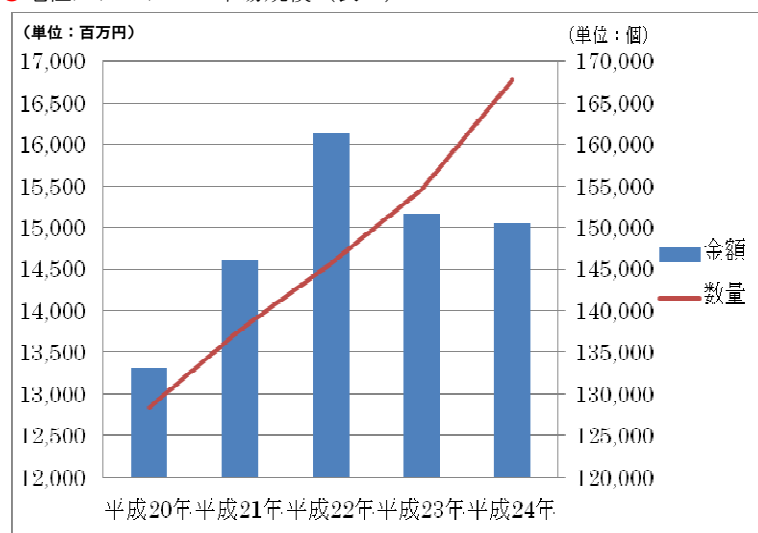
アブレーションカテーテル (心筋焼灼用カテーテル)

アブレーションカテーテル (心筋焼灼用カテーテル) は、頻脈の原因となる心筋組織を焼灼することで治療する医療機器です。WPW症候群と呼ばれる症状のほか、房室結節リエントリー性頻拍、心房粗動、心室頻拍に加え、心房細動の治療にも用いられるようになる等、対象となる症例の幅が広がってきたことから、市場規模は年々増加しており、今後もその傾向が続くものと考えられます (表10)。

電極カテーテル(不整脈事業)



●電極カテーテルの市場規模(表11)



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2012年版 No. 1」より抜粋(平成24年は予測)

電極カテーテル(検査用)

電極カテーテルは、不整脈の診断、重症度評価、抗不整脈薬の薬効評価の他に、心臓ペースメーカーやICDの適応決定等、重要な役割を持った医療機器です。不整脈の症例数増加に伴って、継続的に数量が増加しており、今後もこの傾向は続くものと考えられます(表11)。

なお、平成23年については、数量が増加している中で金額が減少いたしました。これは、従来本商品市場に分類されていたアブレーション機能も併せ持った高価格の電極カテーテルが、アブレーション機能付電極カテーテルとして保険適用となり、これをアブレーションカテーテルの分類に移したことによるものです。

自動造影剤注入装置(虚血事業)



自動造影剤注入装置(インジェクタ)

心臓の冠動脈の検査は、カテーテルを冠動脈に挿入し、これに造影剤を注入した上で放射線を照射することで行いますが、当社では、この造影剤を自動的に注入する装置を販売しております（商品名「ACIST」）。同市場では、ACISTの他に、競合品として2製品が販売されています。

なお、当社推計の累計シェアは、約50%となっています。当社製品を導入いただいている医療施設は、地方基幹病院が多く、稼働率が高いことから装置の消耗品については60%以上のシェアがあると推計しています。

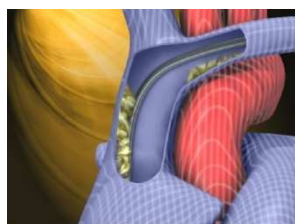


エキシマレーザ血管形成システム — 心内リード拔去術

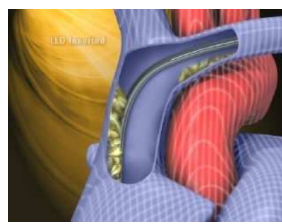
当社が日本国内で独占販売しているエキシマレーザ血管形成システムには、現在日本国内において以下の2つの治療に適用が認められています。

① エキシマレーザによる心内リード拔去術

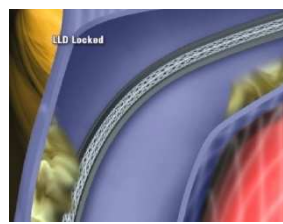
ペースメーカーやICD等のデバイスが菌に感染すると、デバイスと心臓をつなぐリード線を通じて全身に菌の感染が広がります。感染を完全に治療するには、感染源であるデバイスやリード線を抜去する必要があります。しかし、リード線は血管内や心臓内に長期間留置されることで、血管や心臓の組織と癒着しており、抜去することが困難になります。レーザシースカテーテルの先端から照射するエキシマレーザにより、リード線に癒着した血管や心臓の組織を蒸散して切除することで、リード線の抜去を可能にします。



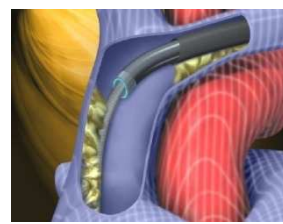
① ペースメーカー、ICD
リード線が癒着



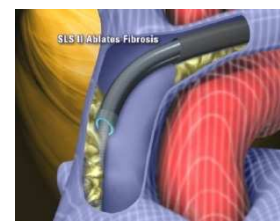
② リードロックングデバイスをペースメーカー等のリード線中空に挿入



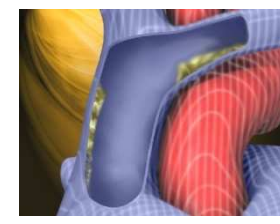
③ リードロックングデバイスを広げペースメーカー等リード線に固定



④ リードロックングデバイスを牽引しながらペースメーカー等リード線にレーザシースをかぶせる



⑤ 癒着部分を蒸散しリード線を血管壁から剥離



⑥ ペースメーカー等リード線を抜去終了



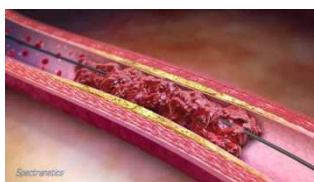
エキシマレーザ血管形成システム — 冠動脈形成術

② エキシマレーザによる冠動脈形成術

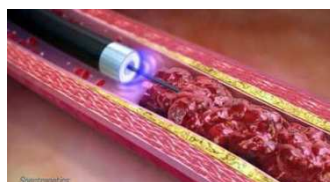
心臓に血液を運ぶ冠動脈が動脈硬化や血栓によって狭窄または塞栓すると、狭心症や心筋梗塞の原因になります。血管内に挿入したエキシマレーザ専用カテーテルの先端から、狭窄や塞栓を起こしている部位にエキシマレーザを照射することにより、プラークや血栓を分子レベルで分解し冠動脈の血流を改善します。

平成24年4月にエキシマレーザ心内リード抜去術の手技(治療行為)が正式に保険収載されました。また、エキシマレーザによる冠動脈形成術も、これまで先進医療としてのみ保険治療が認められていましたが、平成24年4月に手技が保険適用となったのに続き、7月には専用のカテーテルの償還価格が認められたことで、一般の保険診療として治療に用いることが認められました。当社が販売するエキシマレーザ血管形成システムは、この心内リード抜去術や冠動脈形成術に使えるレーザ装置として日本国内で唯一承認された医療機器です。

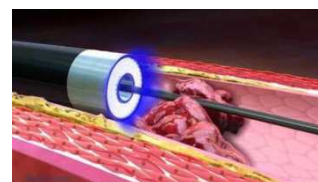
なお、現在国内でエキシマレーザ治療システムによる治療が可能な医療施設は、心内リード抜去術、冠動脈形成術それぞれ約20施設しかありません。しかし、特に年間43,000人以上が死亡する急性心筋梗塞やステント治療後の狭窄や塞栓の再発の治療において、エキシマレーザが持つ大きなメリットに対する医師の関心が高まり、冠動脈形成術の本格的な普及がはじまるものと予想しています。



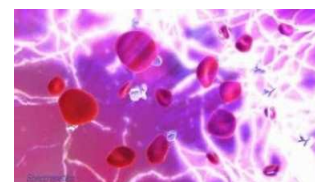
①病変部へガイドワイヤーを通します



②レーザカテーテルを入れます



③病変部へレーザを照射します



④病変部が蒸散



Development Venture

X—「未知数」「無限の可能性」

- ◆ 本資料は投資家の参考に資するため、ディーバイエックス株式会社（以下、弊社）の現状を理解していただくため作成したものであり、弊社株式の購入を推奨・勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

◆ **本資料ならびにIR関係についてのお問い合わせ先**

ディーバイエックス株式会社 経営管理部 TEL:03-5985-6827 FAX:03-5985-6106

URL <http://www.dvx.jp/>